

# 新船を追いかけて 横須賀～北九州～阪神～香川

会員 福富 廉

本学会の年次総会・講演会への現地参加をきっかけに、横須賀から北九州、大阪、神戸を經由して香川県を回る計画を立てた。最大の目的は就航後2週間ほどのジャンボフェリー「あおい」への土休日限りの日中乗船で、併せてここ2年余りの間に就航した新船（就航時期等を明記）に乗ったり見たりしてきたのでレポートしたい。

## 1. 東京九州フェリー「すずらん」

昨年の就航直後に「はまゆう」「それいゆ」で1往復したことがあるが、11月から「すいせん」「すずらん」に入れ替わるということで、これは乗ってみたい手は無いと思って予約した。

夜の横須賀港に行くとき既に「すずらん」が到着していた。船首を前にして垂直船首の元の2船とは少し印象が違った。定刻の少し前に出港。この時、右舷のプロムナードには出してもらえたが、「すぐに閉めますよ」、とのことで、ここを除くと前方が見えるオープンな場所がどこにも無いことがわかり、ちょっとガッカリした。浦賀航路に航路インする頃、左に「橘丸」が進んできたが、その鼻先で右転して前に入り、航路アウトした時点から左右に分かれて行った。

夜中に「いしかり」と「飛鳥Ⅱ」を超越したはずだが、今回「フェリーしまんと」はかなり前を走っていて、視認はできたが超越すことは無かった。10時前に僚船「すいせん」とのすれ違いの案内が入ったが、前方が見える場所はフォワードサロンしかないの、ここで見ていると、ほんとに真正面に見えてきて、何となくハラハラしたが、やがて「すいせん」は右に振れて、以前、会誌でも述べたように、ちょっと普通とは異なる右舷対右舷で反航した。

午後は、お楽しみの船上バーベキューを楽しんだ後、足摺岬の見える15時頃まで休んで、それから日没近く、この時期なので水ノ子島灯台付近まで主に四国西岸の景色を楽しんだ。暗くなってから、気が付いたら、すぐ横を国道久四フェリーの「遊なぎ」らしき船が通って行ったのは、ちょっと残念だった。

船内レストランのメニューや雰囲気は「はまゆう」「それいゆ」と似たような感じやシステムだが、後ろが見えて楽しい。こちらはクレジット精算も可能だが、レストランのレシートの記載が“東京九州フェリー”で売店のそれは“新日本海フェリー”なのに、ちょっと目が行った。他では、カフェも短時間だが営業していて船旅らしい感じがするし、キッズルーム以外はほぼ利用できたようで、コンファレンスルームでは午後2回2種の映画上映も行われていた。



反航する「すいせん」

## 2. 北九州と名門大洋フェリー「フェリーきたきゅうしゅうⅡ」

北九州では、午前が順光ということだったので、まずは巖流島に行って「フェリーくれない」「同むらさき」を撮りに行った。「くれない」はすでに試運転が始まったと聞いていたので、いなかもしれないと思っていたが、「むらさき」と並んで泊まっていた。途中では「ソンヒ」や「UTOPIA」、あるいは多くの通峽船、巖流島からは他に建造中の巡視船や練習船等をたくさん撮影できてとても良かった。



巖流島から見た「フェリーくれない」(左：2023年1月就航予定)と「同むらさき」(2023年4月頃就航予定)



赤間神宮を背景に、関門汽船「りうぐう」(2020年8月進水)

同日はここから関西に向かうとして、本来は名門大洋フェリーの新造船「フェリーきょうと」か「同ふくおか」に乗るべきだったのだが、「あおい」乗船が最大の目的なので、第1便の「フェリーきたきゅうしゅうⅡ」に乗船することにした。これだと、朝の5時半に大阪南港に着いて神戸発8時半(土休日のみ)の朝便に間に合う。実は、名門大洋フェリーにはこれまで乗ったことが無かったし、来春の「フェリーくれない」との往復乗船を考えて、とっておくことにした。

ターミナルに行くと、受付窓口の反対側に全国旅行支援のブースができていてその手続きが行われていた。結構大変な作業で、連絡バス到着後等は長い行列ができていた。船会社も大変だ。ツーリスト正規運賃9,050円に対して第1便ノリーナ割引40%と加えて旅行割その40%で支払金額3,258円で、しかも船内でも使えるクーポンが平日なら3,000円分の付くので(今回は土曜発だったので1,000円分)、実質的にほとんど持ち出し無しで乗船できる感じで、他の予定が無ければ、もう1~2往復でもしてみたいところだった。

出港は17時、まだ日の残る新門司港は久しぶりだ。第1便だと残りの4隻のフェリーを全部見ることができ、出港後後ろを見たら、「フェリーふくおか」がバースシフトしていた。



バースシフトする「フェリーふくおか」(2022年3月就航)



左から「フェリーしまんと」「いずみ」「せつつ」

ビュッフェスタイルのレストランの入口では出港時から行列ができていて、さすが瀬戸内海航路だなあという感じがしたが、朝4時半からの朝食時はもっと混雑していた。夕食1,600円をとれば朝食無料だったし。

22時過ぎに来島海峡を通過した。他の大橋も同じだが、船内ネットで指定しておけば通峡直前にメールが来るサービスがうれしい。本当に久しぶりだったが、ジグザグに走る様子は、今度、ぜひ昼間通ってみたいと思った。

### 3. ジャンボフェリー「あおい」

大阪南港を出て神戸・三ノ宮には7時過ぎに着いたので、もう乗船には十分だ。すでに「あおい」も「フェリーたかちほ」も入港していて、其々、全景を見られる場所を探して撮影した後、乗船した。乗船もプレミアム船室への入室も全部QRコードなのはさすが新船だ。



「フェリーたかちほ」(2022年4月就航)



「あおい」(2022年10月就航)

久々の神戸港でもあったが、昔と違ってほとんど見るべきものが少ない。かろうじて、川崎重工に元の「セブンアイランド虹」と三菱重工の潜水艦を視認した位が見ものだったくらいだろうか。その後、明石海峡を目指すわけだが、実は淡路島の岩屋から池田事務局長が撮影していた「あおい」に乗っていたのでした【学会ニュース2022-149(1107)】。

本船、実に見晴らしの良い、シップウォッチングには最適の船だなあと思っていたところ、どうやらプレミアム席ならブリッジの一つ上の階の右舷に出られるらしいとわかった。私はいつもどうせじっとしていないので自由席しかとっていなかったが、出港後の船内アナウンスで入浴券300円を買えば、そこに出られるとのことで、迷わず購入しに行き、海峡通過時にはそこ出張っていた。狭いけれど眺めの良い浴室やクルーズ船でもある足下に海が見える面白い仕掛けのある足湯等も利用できて大満足だった。



「あおい」の右舷ブリッジ上から後方を望む  
右の淡路島・岩屋には池田事務局長が??



反航する僚船「こんびらII」



池田事務局長のレポートにでてくる  
貨物船「PERLAS」を追い越した





ジャンボフェリー直島ライン「BARCA EOLICA」  
高松東港着岸直前の「あおい」船上から



同左 真っ黒な「BARCA SOLARE」 男木島

#### 4. 男木島、女木島

「あおい」の次は、赤の縞々が特徴的な「めおん」への乗船。入出港が 50 分の時間差だったが、余裕で乗船できた。高松港にはその 3 日前に観艦式イベントの中、大棧橋で見送った「飛鳥Ⅱ」が前日から入港しており、港の中でそびえたっていた。ちょうど、瀬戸内芸術祭（瀬戸芸）の本年最終日で、午後便にもかかわらず多くの観光客が乗船していた。瀬戸芸のおかげで新たな航路や乗船客が増えて、我々にとってもうれしい。男木島で最終便の出港を見ていたら、それこそクルーズ船の出港のように島の人達がたくさんの旗を振って盛大に見送っていた。ちなみに、「めおん」が高松港外に出たところで、ちょうど右から「あおい」が出港してきて神戸に向かって行った。



屋島沖を出港して行く「あおい」



高松港の「めおん」（2021年2月就航）  
「しょうどしま丸」「飛鳥Ⅱ」とオーバーラップ



男木島港の「めおん」と「めおん2」

男木島のもう一つの目的は島の北側にある映画でも有名な男木島灯台へ行くこと。日曜だけ灯台資料館が開館していることもあり早速行ったが、目の前の備讃瀬戸航路の船が間近に見えるのに感心して、翌日も行くことにした。実は、大阪南港到着時にオレンジフェリーがドックダイヤで「おれんじえひめ」の日中回航があることを知り、それに最適だと気が付いたためだが、ねらいどおり、最適な順光状態で撮影できたのは、すごくうれしかった。



男木島灯台沖の備讃瀬戸航路を回航中の「おれんじ えひめ」

この後、女木島にも行ったのだが、両島にはいくつかの展望台や見晴らしがいい場所があり、いずれも撮影によさそうな場所ばかりだった。特に、高松港を宇野に向けて出港するとすぐ目に入る女木島灯台、眼下が航路で北上するフェリーが間近に見える。今は直島汽船の「なおしま」と「あさひ」しかないが、昔だったら、さぞかしすごかったであろう。今まで何十回と目の前を通過してきたのに、一度も来たことが無かったことをすごく後悔した。

ところで、高松港、全ての宇高航路が無くなって高松城の前の四国フェリーの乗り場は更地になっていたが、宇高国道フェリーのほうは今だ残骸が残っているのが痛々しい。数年前に宇野側もそうだったのだが、今はどうなのだろうか。最盛期には 19 分毎で出入港していたのが懐かしい。



女木島灯台下を通る「なおしま」(向かいは高松港)



「オリーブマリン」(2020年9月竣工) 高松港にて



男木島灯台近くの展望台から西側(東側は見えない) 備讃瀬戸航路の展望とその下を通るトヨフジ海運の RORO 船「豊福丸」



ここで、今回出会った特殊な客船を挙げてみる。



国立療養所大島青松園の交通船「せいしょう」



同じく、国立療養所大島青松園の交通船「まつかぜ」



社会福祉法人みくに園の交通船「みくに」



客船では無く特殊船だが、瀬戸内海巡回診療船「済生丸」

## 5. 塩飽諸島（広島、本島）

次は丸亀に行って塩飽諸島へ渡島することにした。お目当ては10月に就航したばかりの本島汽船の「にじまる」。ダイヤの関係で、まず、西側の広島へ往復して、その後、本島へ渡った。いずれもフェリーと客船が就航しているので全部乗れるように片道ずつ乗船。最後が本島汽船の客船で、丸亀港で泊っているのは見たが、従来船もいて乗れるかどうかは不安だったが、島を観光して港に戻ったら「にじまる」が入港していてホッとした。

広島は観光要素が少ないが、本島は塩飽水軍の本拠地だったそうで、古い番所や街並み等の観光ができる。なんでも「咸臨丸」が渡米したとき、水夫50名のうち35名がこの島の出身者だったそうだ。ただ、この島のすぐ東側が与島で、間近に瀬戸大橋の車の行き来が見られる。岡山側からの船も有るようだが、すぐ近くにありながら、橋が無い島民達の思いはどのようなのだろうか。

広島へのフェリー「しわく丸」と本島へのフェリー「ほんじま丸」、其々全く異なった船だが、どちらも個性的で面白かった。「しわく丸」は船首ランプのみのフェリーでデッキのディズニーキャラクターのイスとか、何となくアカ抜けた明るい感じの船、一方、「ほんじま丸」は普通の貫通型のフェリーだが、最上甲板への階段がブリッジウィングの傍にあるなど、今までに無い配置のように感じた。

「にじまる」は、この10月に尾道の瀬戸内クラフトで完成したばかりの19GT型客船。バリアフリーだったり、ゆったりした席など今風の造りで、途中に立ち寄った牛島では岸壁の高低差から岸壁に直角に船を着ける船首付けで船首から乗り降りしていた。



備讃フェリーのフェリー「しわく丸」 丸亀港



備讃フェリーの高速艇「ニュービサン」 丸亀港



本島汽船のフェリー「ほんじま丸」 丸亀港



本島汽船の高速艇「にじまる」(2022年10月就航) 本島



本島汽船在来の高速艇「ブルーオーシャン2」  
奥は「にじまる」 丸亀



にじ観光の高速艇「スーパーマリン」  
海上タクシーとして使われているか? 丸亀



「にっぽん丸」と「ニュービサン」



「しわく丸」のデッキのイス



「にじまる」の船内



1日行ったり来たり、船の交通量の多い備讃瀬戸航路の近くにいると、色んな船に出会うことができた。客船「につぼん丸」、巡視船「あきつしま」、帆船「みらいへ」、海底ケーブル敷設船「SUBARU」、フェリー「おれんじえひめ」、客船「新鑑真」等々。

ところで、丸亀の街はというと、金毘羅さんへの街道筋であることから、それにからむ史跡がいくつか見られ、また、今治造船の丸亀工場があることから、道路の間に巨大なプロペラのモニュメントがあったりする等、なかなか船に関係した町であることが見られた。今治造船のドックはさすがに大きく、他にない活気が感じられた。ドックではONEの大型コンテナ船が建造中で、また、フェリーの航路筋に10基ほど並んだ煙突工場が興味深かった。



今治造船丸亀事業本部 第3号船渠



煙突製作中 中に7~8基、屋外にも3~4基

## 6. 金毘羅さん

ここまで来れば金毘羅さんにお参りに行かないわけにはいかない。久しぶりだったが、今までの安全航海の御礼とこれからも続けての海上安全を祈願するために785段の石段を登った。いつ行っても海関係の会社・団体が寄進した証の参道の石碑は興味深い。残念だったのは、楽しみにしていた絵馬堂が改築されるために更地になっていて、今回は見られなかったことだ。

帰りに、これも久しぶりに参道脇の“海の科学館（琴平海洋博物館）”に立ち寄ってみた。ひなびた昔のイメージからすると展示方法等は今風になっていたが、やはり船の模型とか船の部材とか、展示物自体が古いのは残念だ。



海の科学館全景  
右外に実物のエンジンやプロペラの展示有り



左の写真の右上の公園にある  
元海上保安庁の巡視艇「あらかぜ」



## 7. 高松から小豆島経由で姫路へ

高松からは就航後 1 年ちょっとの「第十一こくさい丸」。愛称“しまぞう”君の象のマークの煙突がかわいく、その前面上にある象の彫像や、煙突内のメリーゴーランド、最上甲板のラウンジ等、色々見るべく箇所が多い。12 時 10 分発のこの便は、土休日なら屋島の沖付近で「あおい」と反航するので同船のいい写真を撮れるはずだが、この日は平日なのでそれは無かった。当然、「あおい」からは、この船を撮ることはできたのだが、やや逆光である。



国際両備フェリー「第十一こくさい丸」(2021年7月就航)



同左 「あおい」の船上より



反航する僚船「第一こくさい丸」“パンダ” 小豆島・池田港



“しまぞう”君 ファンネル/メリーゴーランド/彫像

今回の最後は小豆島の福田港から姫路港まで「第三おりいぶ丸」。就航日の初便に乗った船で、僚船「第五おりいぶ丸」で無いのは残念だが反航する写真を撮ることができた。姫路港に近づくと、「高福ライナーII」を始めとして次々と客船と反航する等、最後まで気の抜けない航海だった。



小豆島フェリー「おりいぶ丸」小豆島・福田港



反航する「第五おりいぶ丸」家島諸島沖



←  
「高福ライナーII」(2020年6月就航) 姫路港外